

私の障害児教育の原点は、「怒り」「恥かしさ」「あやまる」この三つであった。

差別する私や私たちに、怒りを感じ、不幸にしておいて救済しようとする高慢さ、残酷さに恥かしさを感じ、あやまらなければと思ったのである。

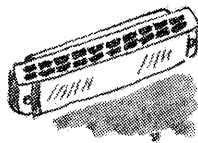
今、幼児教育の中で、この子どもたちが所属を奪われ、実存をおかされている。「こんな子どもが園に入ってきたら大変だ」この言葉、心の中に、障害児差別の根がある。

このことをもう一度、教育者はふり返り、反省しなければいけないのではないだろうか。

私の幼少年期のあの暗い思い出を、重い知恵おくれの子どもたちや障害児たちに二度と味わわせない教育を進めていきたい。

いつの日か、この子どもたちにあやまりつつ、差別のない教育の場が生まれてくることを信じ続けている毎日である。

(止揚学園)



幼児の教育 第七十四巻 第三号

三月号 © 定価二〇〇円

昭和五十年二月二十五日印刷
昭和五十年三月 一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売
所フレーベル館にお願いいたします